



すずらん



第41回手をつなぐ育成会岡山県大会（笠岡大会）にて長期の就労が認められ表彰をうける利用者

『次の時代に向けて』

理事長 黒山靖弘

岡山県健康の森学園では、昨年十一月に開園三十周年記念式典を行い、地域の皆様とともに節目を祝いました。

当法人では、学園開園時から利用者の方々の自立と社会参加に向けて働く力や生活する力を高めるとともに、就労の場を提供したり地域の事業所等での就労に向けた支援をしたりしてきました。また、障害のある方を含めて地域の方々の相談に応じて、地域生活の支援や就学前の児童のニーズに応じた支援を行ってきました。当法人の運営面や利用者の活動・支援、地域支援等の上では、行政を始め地域の関係機関、団体や事業所、個人など、多くの方に様々な形で支えていただきました。また、アンテナショップや交流の機会等を通じて、地域の皆様にも学園の取組等について理解を深めていただくことができました。これまで、大勢の皆様からいただいたご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

学園は障害のある方の福祉の増進を図ることを目的として設置されています。その目的を達成するために、当法人には、利用する障害のある方の自立と社会参加に向けた支援、障害のある人達について人々への理解啓発、地域の福祉の充実への貢献等の役割があると考えています。その役割を果たすために、学園内にある特別支援学校と協力しながら障害のある方の理解や支援についての専門性を高め、利用者の自立と社会参加に必要な取組を進めてきました。また、行事や製品の販売等を通じて地域の方に学園の状況や利用者の活動のようす等を発信し、皆様に理解を深めていただくよう努めてきました。地域の方々と連携する中で、当法人としてできる福祉ニーズへの対応も徐々に拡大させてきました。

三十年が経過した今、これまでの取組等を振り返り、利用者支援のさらなる充実を図るとともに、地域との連携や地域貢献等の充実に努めることにより、皆様の期待に応えられる法人運営を目指していきたいと考えています。

日帰り学習

11/18・19

日帰り学習にて鷺羽山ハイランドに行きました。新型コロナウイルス感染症予防のため2日間に分かれて行くこととなりました。鷺羽山ハイランドでは、ジェットコースターやメリーゴーランド、コヒーカップ、空中ブランコ、観覧車などがあり、たくさんのアトラクションに乗り楽しみました。中にはバンジージャンプに挑戦した利用者の方もいて地上30mの高さから勇敢に飛んでいました。これまで、新型コロナウイルス感染症が拡大して、みんなで出かける事ができなかったですが久しぶりにみんなで外出ができて楽しい時間を過ごす事ができました。



利用者勉強会

12/23



新見警察署生活安全課岡田巡査部長を講師にお招きして「地域で安心して安全に暮らすために」をテーマに勉強会を行いました。毎年この時期に利用者の皆さんを対象に勉強会を計画していますが、本年も警察署の方に来て頂き、地域で安全に生活するために、地域で現在起きている犯罪状況等をわかりやすく話をさせていただきました。後半では利用者の方からの質問もあり、場面に応じての対応策を教えていただく事ができました。

クリスマス会

12/27

友だちの会が主体となり、クリスマス会が開催されました。準備司会、演奏などを自分たちで運営するとともに、有志による出し物では、マジックを披露したり、歌を歌ったり、ダンスを披露しました。その後音楽演劇サークルによる、「ソーラン節」の元気なパフォーマンスや全員でビンゴゲームをして景品をもらっていました。最後に施設長サンタからクリスマスプレゼントをもらい、とても嬉しそうでした。



成人式

1/8



利用者の皆さんと一緒に成人を迎えられた3名の方の成人式を行いました。施設長、学園長顧問、そして保護者会会長より祝いと励ましの言葉が寄せられた後、利用者の先輩からお祝いとして「沢山の事に支えられていることを忘れず、自分の行動に責任と目標をもって一緒に頑張っていきましょう。」という言葉がありました。これを受け、成人を代表として「夢と希望に向かって進みます。社会で活躍する姿を見守ってください。」と誓いの言葉が伝えられました。

岡山県健康の森学園開園30年を迎え、開園当初より事業を支えている職員からのメッセージ

山田浩久（施設長）

平成3年4月1日初出勤
施設寮舎はまだ屋根の瓦吹き、内装工事が行われており、園内の移動は長靴にヘルメットを着用して園生の受け入れ準備をすすめました。4月17日には開園式典が行われ、園生の皆さんも家庭から離れ、健康の森学園での新しい生活が始まりました。当面の作業活動は水田と畑の整地、鶏舎作りからスタートでした。水田は土が真ん中に高く積まれた盛り土状態であり毎日スコップで一輪車に土を積み均等になるようにひろげていき、その後も毎日バケツ片手に石拾いを行い水田の整備に取り組みました。また、鶏舎建設では技術や道具が十分ではなかったが、園生とともに学園内の森から間伐材を運び出し手作りの鶏舎を建てました。開園から30年、福祉に関する法律は大きく変わり施設の体系も変わりましたが、「大地育人」の理念に基づき、自然の中でのびのびと活動し、自分たちで作り、育つということを忘れず支援をしていきたいと思います。

加藤久博（総括管理責任者）

平成3年4月1日に、岡山県健康の森学園の全職員が集まりました。建物はまだ無く、パイプ椅子を与えられて、「15日が給料日だから、やっといて。それから、社会保険や雇用保険もまだ入ってないし、退職金済にも入ってね。」と言われ、給料をするって何のこと？本俸って何？社会保険や雇用保険に入らって、どうすりゃいいの？と、途方に暮れたことは覚えていますが。それ以降、会うかた会うかたに、「岡山県健康の森学園の中に、岡山県健康の森学園養護学校と岡山県健康の森学園授産施設があつて、その内、授産施設のほうを営営するために社会福祉法人健康の森学園が作られたので、我々はその社会福祉法人の職員であつて、学園や養護学校の県の教職員のかたがたと、立場も給料も違うんですよ。同じ場所働いてますけど。」と説明してきました。あ、30年も言ってきたんですね。

小川保江（看護師）

開園から30年。最初、病院と障害者福祉とのギャップに悩んだ日々。施設の中に看護師は、私一人。何をすればいいの？他施設の先輩看護師に聞いたりして健康面のサポート、健康診断や内科健診等、嘱託医との連携、事務的なことをしてきました。分からないことや、うまくいかないこともあり、涙する日もありました。（当時は若かったのに）時に、利用者と一緒に作業をしたこともありました。鶏の餌やりや、ヘルメット片手に、山に入ったことも……。月日が経つにつれ、利用者は、素直で可愛いと思うようになり30年勤務する事ができたのかなと思います。この二年間は、コロナの対応に追われていました。感染予防にワクチン接種。一人ではできません。職員みんなが率先して動いてくれ、協力してくれました。とても感謝しています。健康の森って、自然豊かで、人も心も豊かで、そんな中で働くことができて幸せに思います。

大原美和（サービス管理責任者）

30年前、まだ学園も完成していない、通勤道路も開通していない、作業服に長靴姿で辞令交付式に出席した恥ずかしいことを懐かしく思い出します。今思えばあつという間の30年でした。10代で入社し、自己紹介の時はいつも「ピチピチの大原」と呼ばれていました。が今は……。気持ちだけはまだまだと思っています。まだ、福祉のことも知らなかった私が仕事を続けてこられたのは利用者さんに関わることでパワーをもらっていたと思います。雨の日も雪の降る寒い日も文句言わずに働く姿には感心します。利用者を見て自分を振り返ることで私も成長してきたと思います。何より働いてこられたのは開園当初から一緒に働いてきた同僚はもちろん今まで一緒に働いてきた職員がとてもいい人ばかりだったからです。今はコロナで飲み会等もできませんがコロナが落ち着いたら30年を振り返ってみるんで語り合いたいです。

瀧本晴美（もりっこ管理者）

私は開園から健康の森の大自然の中で5年間を過ごしました。プレハブの建物での職員会議から始まり、園生（利用者）と土の山を崩し広げての畑づくり、鶏舎・牛舎建設、養鶏、椎茸は原木から切り出しの栽培等慣れない作業と一緒に汗を流しました。季節ごとの行事では皆さんと作業以外の経験することが出来ました。運動会や、マラソン大会の練習では、時に本気になっている自分がいたと今は懐かしく思います。その後縁あつて、また健康の森学園で児童の支援に携わることとなりました。あの頃より施設のサービスの内容が多様化しており、また、地域で健康の森学園に求められることが変化してきたように思われます。この新見に健康の森学園があつてよかったと思われよう、開園当初の気持ちを思い出しなが、より良い支援を考えていきたいと思います。

三上 幸（相談支援専門員）

初出勤の日、建物は工事中でプレハブでの初顔合わせでした。周囲は雪解けのぬかるみで持参した長靴は、その日から学園生活で欠かせない物になりました。大地育人の理念の基、田畑を開墾し木を切り出し、山道を作り、本格的に作物を作るまでに2年くらいかかりました。シャベルと一輪車、全てが手作業で戸惑うことばかりの毎日でしたが、常に前向きに頑張る園生の姿に励まされ私が育てられた日々でした。3年目にはグループホームができ4人の方が念願の地域生活を始めました。思わぬトラブルもありましたが、地域の方との触れ合いの中でルールを学び自分たちで地域の中に居場所を拓けていきました。そんな先輩たちのおかげで今は多くの人が地域で生活しています。町の中で生き生きと暮らす皆さんの姿を見るたび、これからもっと一人ひとりがありのまま受け入れられ自分が望んだ生活を送ることができるようになってほしいと願っています。



施設サービスアンケート調査結果

対象者（施設利用者および保護者）

（利用者）

令和4年2月実施

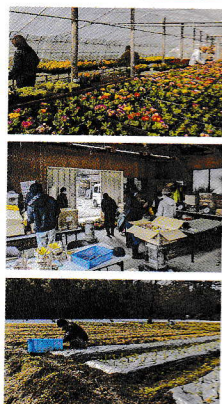
（保護者）

令和3年10月実施

1. あなたは大切にされていますか。	はい	いいえ	分からない
① あなたの希望や意見が可能な限りいかされていますか？	36	5	1
② 職員の名前の呼び方や言葉遣いは良いですか？	32	5	5
③ 職員にたたかれたり、蹴られたりしていませんか？	40	2	0
④ いつでも苦情が言えるようになっていませんか？	32	6	3
⑤ 自治会や休日の余暇の時間は、自分たちのしたいことができますか？	35	1	6
2. 自分の目標について	はい	いいえ	分からない
① 年間目標や月の目標は、職員との話し合いによって決められていますか？	36	2	4
② 自分の目標を達成するためにはどうしたらよいのか職員は話し合いをしてくれていますか？	37	3	2
3. 日常生活の支援	はい	いいえ	分からない
① 食事はバランスが取れていておいしいですか？	23	0	2
② トイレはきれいでき持ちよく使えますか？	22	3	0
③ ぐっすりと眠れますか？	19	2	2
④ 怪我などをした場合には、すぐに手当をしたり、病院に連れて行って貰えますか？	25	0	0
⑤ なぜ薬を飲むのか知っていますか？	18	1	6
⑥ 帰宅は、自分や家族の希望を大切に決めてられていますか？	22	1	2
⑦ 自分の預金通帳は見たいときにはいつでも見ることが出来ますか？	19	2	5
4. 住みやすくなっていますか	はい	いいえ	分からない
① 施設の物が壊れたりした場合には、修理されていますか？	19	3	3
② 自分の部屋は気持ちよく生活出来るものになっていますか？	24	0	1
③ 自分の物がなくなったり、壊されたりしていませんか？	23	1	1
5. 地域との交流	はい	いいえ	分からない
① 施設の行事に地域の人たちはよく来てくれていますか？	12	18	12
② 地域の行事によく参加出来ていますか？	9	8	8

	満足	まあまあ満足	どちらでもない	いくらか満足	不満	無記入	合計
建具・設備に支障はありませんか	5	10	8	1		2	26
職員の態度はどうでしたか	17	8	1				26
職員の言葉づかいはどうでしたか	19	5	1	1			26
職員の支援技術は適切でしたか	12	10	2			2	26
職員の対応が早いと思われましたか	11	8	6	1			26
食事の内容はいかがでしたか	10	7	3			6	26
専門的な助言・援助が得られましたか	11	7	6	1	1		26
気兼ねなく相談ができましたか	14	6	4	2			26
期待通りのサービスとなっていましたか	10	9	2	3	1	1	26
約束した支援が実行されていましたか	11	9	1	3	1	1	26
非常時の対応などに不安はありませんか	9	9	3	1	1	3	26
利用を継続したいと思われましたか	利用したい 23			わからない 3			26
どのようなサービスがあればよいと思われますか	余暇活動の充実 法人後見事業						
施設への意見・要望	グループホームの増設 送迎車の導入 Wi-Fi の設備						

今春健森を巣立つみんな



「健森の仲間たち、親や担当してくれた職員のみんなに感謝の気持ちを伝えたいです」「グループホームでの生活が楽しみです」「大変だった作業も今では担当を任せられ、みんなに教えられるようになりました」「就職できるようなずっと頑張ってきました」「スマホをもつことになりました」「これからみんな輝いていきたい」など沢山の思い出を語ってくれました。

溝上清一（就労定着支援事業／就労定着支援員・農産園芸班担当）



皆さん、退所、おめでとうございます！皆さんは畜産班で2年間、農産班で2年間の計4年間、猛暑の日も、雪の日も一生懸命作業をがんばってきました。そのことに自信を持ってください。そして、大変な中でがんばったからこそ、就職ができた、次の事業所に行くことができたことを忘れないでもらいたと思います。これから新しい生活が始まります。自分の夢や目標に向かって、一歩ずつ前へと進んでいってください。